

Ⅲ わらじ村長 鎌田三之助の挑戦

5 品井沼開墾台覧記念碑（東宮殿下一分間停車記念の碑）

場所：宮城県宮城郡松島町根廻



品井沼開墾台覧記念碑

明治四十一年秋大正天皇猶東宮におは志し時東北地方に行啓あそばされ十月三日鐵路盛岡より御歸還の御途次寺田宮城縣知事の懇請を納れ賜ひ特に此處に一分間御停車あらせられ畏くも排水工事の實況を御台覧此工事は必ず達成せしめよとの有難き御詔をさえ賜はりたり勸業奨励の御恩召洩れ承るだに畏き極みなり官民深く之に感激し夙夜工事を勵み同四十三年其竣工を見るに至れり之によつて美田八百町歩は年々の水害を免れ更に良圃千三百町歩を開拓し得るに至れり茲に碑を樹て其の由来を記してこれを不朽に傳へんとす

昭和八年九月二十日

宮城縣品井沼水害豫防組合

従六位勲六等 四竈仁邇書



▲東宮殿下一分間停車記念の碑(広場)

※左端の標柱は「元禄潜穴穴尻」を示す。



東宮殿下一分間停車記念の碑

明治四十二年十月、東宮殿下一分間停車記念の碑が建立された。この碑は、東宮殿下がご行駕された記念として、昭和八年九月、品川御用水宮子殿により建立された。

平成二十二年十月、品川御用水宮子殿が、東宮殿下ご行駕の御影を上げ、藤田村長はじめ工事執行委員、大塚、明治四十二年十月十三日午後三時四十分、船場上山工場の敷地にお召し進出された。東宮殿下ご行駕の御影を上げ、藤田村長はじめ工事執行委員、大塚、明治四十二年十月十三日午後三時四十分、船場上山工場の敷地にお召し進出された。東宮殿下ご行駕の御影を上げ、藤田村長はじめ工事執行委員、大塚、明治四十二年十月十三日午後三時四十分、船場上山工場の敷地にお召し進出された。

「天下の大事業は、中絶無事の事なく竣工せしむるべし。」

「此の碑は、東宮殿下ご行駕された記念として、昭和八年九月、品川御用水宮子殿により建立された。」

平成二十二年十月、品川御用水宮子殿が、東宮殿下ご行駕の御影を上げ、藤田村長はじめ工事執行委員、大塚、明治四十二年十月十三日午後三時四十分、船場上山工場の敷地にお召し進出された。

品川御用水宮子殿が、東宮殿下ご行駕の御影を上げ、藤田村長はじめ工事執行委員、大塚、明治四十二年十月十三日午後三時四十分、船場上山工場の敷地にお召し進出された。



▲台覧(東宮殿下一分間停車)



▲東宮殿下一分間停車の地(2010.5.9 撮影 鉄橋下は高城川)

<解説板の内容>

東宮殿下一分間停車記念の碑

明治潜穴工事施工にあたっては、工事続行派と工事中止派との対立の中、中止派の感情が根強く残っていた。

明治四十一年十月に東宮殿下(後の大正天皇)が、奥州地方を行啓なされるということを知り、鹿島台村長鎌田三之助は、東宮侍従に願い出て殿下の代理人の方の視察を切望した。

ところが、東宮殿下御自らご台覧との報告を受け、鎌田村長はじめ工事続行派は大喜び、明治四十一年十月**十三日(三日の誤り)**午後三時四十分、根廻上山王地内の鉄橋上にお召し列車が一分間停車

しご台覧の栄を得たのである。当時お召し列車が停車場以外に停車することは絶対にあり得ないことであった。

東宮殿下よりのお言葉

「天下の大工事である。中途挫折の事なく竣工せしめよ」

これ以後工事関係者に動揺はなくなり無事に工事が完了している。

この石碑は、東宮殿下がご台覧された記念として昭和八年九月、品井沼水害予防組合により建立された。

平成二十一年十一月

農村景観・自然環境保全再生パイロット事業

特定非営利活動法人 あぐりねっと21

ねまわりコミュニティ推進委員会



▲解説板の画像を拡大